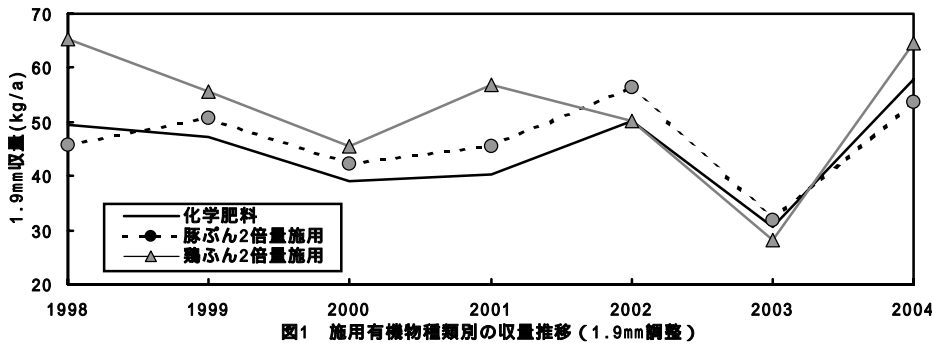


県北地域での発酵鶏ふん及び発酵豚ふんの水稻への利用

【1 成果概要】

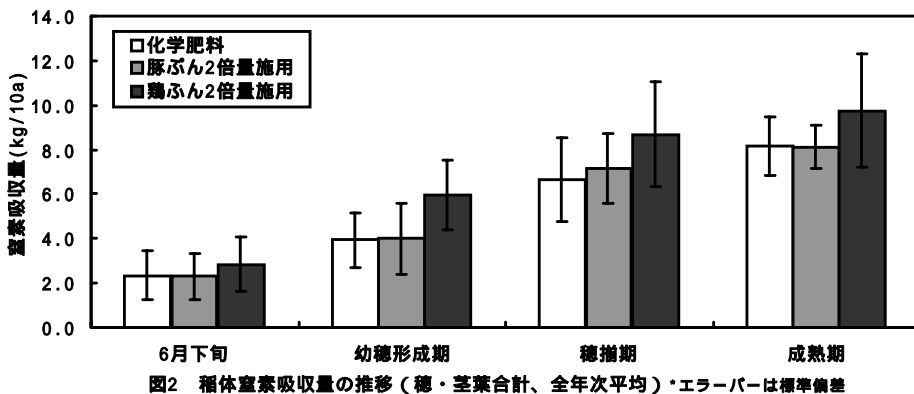
水稻栽培では発酵豚ふん・鶏ふんは、**窒素成分で化学肥料のおよそ2倍量を上限**として利用することができます。

発酵豚ふん・鶏ふんを連用しても、地力窒素の変動はほぼ見られません。



豚ふん・鶏ふん、どちらも窒素成分で化学肥料の2倍量を施用することで、化学肥料と同程度～やや多い収量となっています。

*2003年は冷害のため全体的に収量が低くなっています



窒素吸収量で見ると2倍量施用した場合、豚ふんでは化学肥料と同程度の生育、鶏ふんでは、化学肥料よりやや過剰な生育となると考えられます。

【2 効果】

- 1 発酵豚ふん・鶏ふんを活用した特色のある米作りができます。
- 2 有機質資源が有効活用され、地域における有機物の循環が促進されます。

【3 留意事項】

- 1 発酵豚ふん・鶏ふんは、肥料成分の変動がある資材ですので、利用する場合には成分のチェックを行う必要があります。
- 2 発酵鶏ふんの2倍量施用では、生育量が多く稈長が生育の基準値以上となる事例があるなど、倒伏するおそれが高まるため、上限に近い施用をする場合は注意が必要です。

【4 適応対象】

- 1 対象となる地域
かけはし、いわてっこが作付されている地域
- 2 対象となる人
特色のある米づくりに取り組みたい方

【5 導入コスト】

- 1 資材費(施肥窒素量 6 + 2kg/10a(基+追肥))
 - (1)発酵鶏ふん 約 12,600 円(15kg/袋、約 36 袋)
 - (2)発酵豚ふん 約 12,500 円(15kg/袋、約 38 袋)
 - (3)化学肥料 約 5,500 円(20kg/袋、約 3 袋)